一家の夏　五島福江島・奈留島クルージング

2022 年 7 月

今年の第二弾・五島クルージングの目的地は福江島と奈留島。

夏の家族クルージング先として、福江島、久賀島、奈留島、若松島、中通島と随分、悩みました。結果、家内が CA 時代に福江空港へ度々、フライトで訪れ、毎夏恒例の「夕焼けマラソン」に参加していたという思い出の回帰を目的に、そして、私が 2008 年 8 月に単独で、2012 年 5 月に母と福江島へクルージングした経験をもとに、この夏、家族で訪問する最初の島として福江島を選びました。

次に、奈留島。マイナーな島ですが、地元の熊本八代ヨットクラブのメンバーから高評価であったことから、第 2 の寄港先として選びました。

福江島・三井楽の岬、柏崎公園

〇1 日目

7 月 22 日朝、小学生 2 年生と幼稚園年長になった息子二人を連れて、艇を係留している長崎サンセットマリーナへ。この春以来 2 回目の五島クルージング（前回は中通島の奈良尾と宇久島)、しかも、初日から夜間航行ということもあり、デッキにジャックラインを準備、航海灯をチェックし、そして最後の清水搭載をしました。2 人の息子は随分とヨットにも慣れてきて、デッキを綺麗に掃除してくれました。一旦、自宅に戻り、日が落ちて涼しくなった午後 10 時、家族 4 人でヨットに出向き、家内は衣類と生鮮食品を積み込み、息子らはキャビンで映画大会。私はデッキをチェックして、暖機運転を済ませました。

時計の針は午後 11 時。これから 3 日間のお楽しみを思い描きながら、出港しました。平穏な長崎伊王島沖、天気も視界も良く、夏とは思えないくらい涼しく快適な夜。五島福江まで 55 マイル。翌日 23 日の朝に問題なく到着する計画でした。

出港してから 20 分後、エンジンの排気音に異常が。セーリングの後、毎回必ず清水でエンジンをフラッシングし、ベルトやオイルのチェックも怠らない私としては、不思議な異音に感じました。スタンをのぞき込むと、闇夜の海面に映る冷却水の量が若干、少ない。風は

北風 3 メートル。機走を止めて、福江までノロノロとセーリングすることも一瞬、頭に浮かびました。しかし、これから 120 マイルのクルージングということもあり、仕切り直したほうが良いと判断し、エンジンの回転を落としてマリーナへと針路を変更しました。そうして暫くしたところ、排気管から太鼓のような野太い音が「ドンドンドン」と聞こえてきます。続けて「ピーーー」と嫌な警報音。やってしまいました。オーバーヒート。結局、微風の中、セイルを張って、数回タックを繰り返し、真っ暗なマリーナへ帆走で戻る羽目になりました。

縮帆して艇をマリーナの桟橋に着岸させ、エンジンルームを開放し、セイルドライブから伸びる冷却水ホースを口にくわえて息を送り込むと「ゴボゴボ」と船底からの音が。取り入れ口に問題はなさそうです。そこで、ポンツーンの水道栓にホースを繋いで、エンジン機側の三方弁を切り替え、水圧をかけてフラッシング運転を開始すると、冷却水は問題なく排出。最終的にインペラの問題と判断し、明るくなってから修理することにしました。

〇2 日目

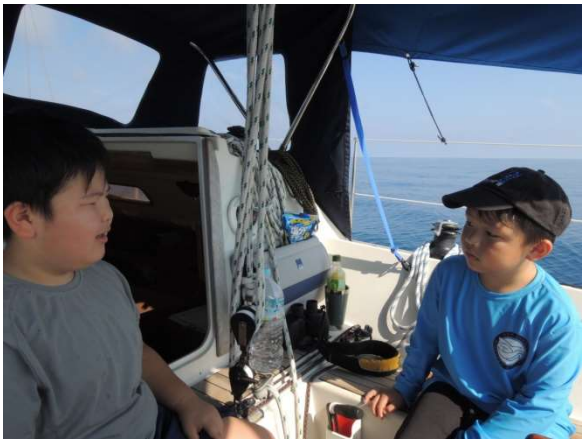
7 月 23 日午前 4 時半、バウバースでハタと目が覚め、ゴソゴソと工具と予備のインペラをロッカーから取り出して交換修理開始。冷却水ポンプを分解したところ、インペラのゴム羽は 2 本が無くなり、1 本は折れていました。定期的な点検や交換の必要性を痛感した次第。職業柄、人様に言えない失態をしでかした次第でした。

折れたインペラ

気を取り直して午前 5 時に再度、マリーナを出港。今度は冷却水も元気に出ています。ただ、期待していた北風は略、無し。全てに満足はできないものの、あらゆる準備ののちに、無事に出発できただけでも感謝でした。

朝日に見送られてイザ出港

出港後、家内は若干、船酔い状態。深夜のトラブルや早朝の交換作業など全く知らない息子達が起きだしました。すると、イルカの大群がヨットを取り囲みました。すかさず、キャビンへ声をかけると、大はしゃぎで息子らがデッキへ出てきました。ちょっと船酔いしながらも、久しぶりに見たイルカの姿。夏の思い出第一弾となったことでしょう。



無風の中、しりとりゲームで時間を潰す

午後 1 時過ぎ、福江島にポッカリ浮かび上がる緑の丘陵、鬼岳が見えてきました。どうして鬼岳だけが周囲の丘陵と異なり、全てを草原で覆われているのか不思議です。そうこうするうちに 2 時となり、福江港フェリーターミナル前へ入港。福江港の港湾事務所へ電話して、事前に予約していたポンツーンに舫いを取りました。

鬼岳（左）と福江港（正面）が見えてきた

係留料金は二泊三日で 360 円

係留場所は 14 年前の訪問時と同じ場所（2008 年の訪問時写真）

気温 32 度。家内と息子らはフェリーターミナルへ駆け込んでアイスで涼をとり、私はチャンスレンタカーという地元のレンタカー屋へ徒歩で向かいました。フェリーターミナル至近にあるレンタカー屋さんの窓口に出向くと、感じの良いお店の方が親切に五島の地図まで下さって、島の皆様の温かさを感じました。

さっそくフェリーターミナルへ、そしてアイスで涼をとる

そして、家族が待つフェリーターミナルへレンタカーで戻り、ヨットに積み込んだ荷物を車へ積み替えて宿カンパーナホテルへ。ヨットに泊まれば経費も節約できるのですが、あまりの暑さのため、熱中症を予防するためにも、今回は福江港に近い場所に 2 泊することにしたのでした。

日頃にない贅沢

〇3 日目

翌 24 日、朝から小雨の中、福江市内の石田城と武家屋敷を抜けて、島の丘陵に位置する福江空港へ。その空港は家内が 20 代のころ、何度も訪れた思い出の場所。当日は帰省や旅

行の方々も見受けられ、活気だっている様でした。午前 10 時過ぎ、曇天の中を福岡からのプロペラ機が到着。ターミナルの屋上デッキで家族一同、タクシーするプロペラ機をフェンス越しに出迎えました。家内は機体からボーディングラダーを下ろす CA に数十年前の自分を重ねたことでしょう。機内から乗客がすべて降り立ち、次の乗客が全て機内に乗り込み、無事に福江空港を飛び立ち、低い雨雲に機体が隠れるまで、家内はずっと眺めていました。きっと、良い感傷に浸ることができたことでしょう。

空港の送迎デッキにて懐かしむ

　そのあとはお決まりの観光です。溶岩が海岸に迫り、草原とヤシの木が揺れる絶景の鐙瀬熔岩海岸を散策。2008 年の単独クルージングで味わった絶景を家族と再び共有できました。

2022 年の案内図（右）、と 2008 年の案内図（左）

瀬熔岩海岸にて家族と共に（左）と、2008 年の単独訪問時（右）

その後、見事なブルーの香珠子海水浴場で軽くひと泳ぎ、冨江漁港でサンゴ漁の雰囲気を感じ、1 時間かけて海岸沿いのワインディングロードを抜け、明治 12 年に初点灯した日本屈指の大瀬崎灯台を遠巻きに見学。

大瀬崎灯台　昭和 46 年改築、光達距離約 25 マイル

そして、旅の目的第 2 弾、玉野浦・荒川温泉へ。荒川温泉は、家内がずっと以前に職場のイベントで参加していた「夕焼けマラソン」の宿泊地でした。当時、「豆や旅館」という旅館を併設していたのですが、2006 年ごろに宿のご主人がお亡くなりになり、現在は日帰り入浴施設のみとなっています。私は 2008 年に単独で玉野浦に寄港し、荒川温泉で一休みしたこともあり、今回、夫婦の思い出を重ねることができました。

現在の荒川温泉センター（左）と、2008 年の同センター（右）

現在は足湯も併設

荒川旅館は 1856 年に発見されたとのことで、地下のマグマで暖められた温水 67 度が噴き出る天然の温泉となっています。

2022 年の案内板（左）と、2008 年当時の案内板（右）

現在の荒川港ポンツーン（左）と、2008 年寄港時（右）

現在の荒川港ポンツーン（左）と、2008 年寄港時（右）

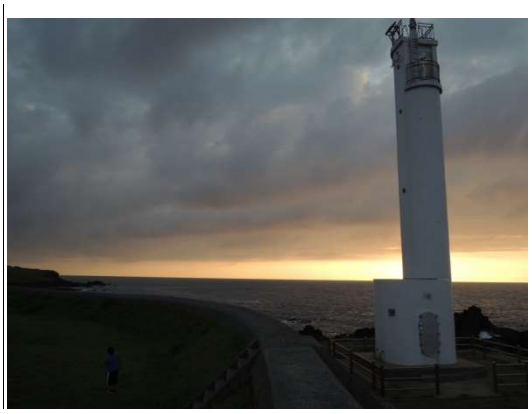
次回はぜひ、もう一度家族で荒川寄港と念じつつ、次の目的地である高浜・頓泊海水浴場へ向かいます。前日、宿の方から頓泊のほうが、より遠浅で子供に目が届くと聞き、さっそく夕方の頓泊へ。人気のなくなった真白で広大なビーチを貸し切り、ライフジャケットを着用して沖の進入防止ブイまで泳ぐことにしました。水中眼鏡越しに見える永遠に続く白い砂の海底、澄んだ青い海。振り返れば緑の山と森。表現に困るくらい美しい夕暮れの空間。沖に浮かぶ進入禁止ロープの下には、害獣除けのネットすらなく、浜に引き返す途中から息子らは体力不足でギブアップ。息子をチンプル（仰向けに浮かべて、顎をもって引っ張る手法）でビーチまで戻り、自然を十分に感じました。

すると、同じ年齢ころのお子さんを連れた若いご夫婦が。なんでも、ビーチ至近に 3 年前に移住したそうで。都会の生活と異なり、冬の季節風は自宅を吹き飛ばしそうな勢いでもあり、人生の価値観が全く変わったそうです。「強く生きるということは、彼らのような生活を選択肢として選ぶこと」か。息子らは今、仲良くなったばかりの友人と遠浅の海で自由に

泳ぎ、私は新たな価値観を感じたビーチでの 2 時間でした。

高浜海水浴場（左）と、頓泊海水浴場（右）

この日最後のイベントは夕日の見える三井楽の岬、柏崎公園へ。



弘法大師の碑（左）と、東シナ海に沈む夕日（右）

最高のサンセットの風景

晩は、頓泊海水浴場で出会ったご夫婦より紹介のあった福江市内の食堂「望月」にて五島牛ハンバーグ・ステーキを頂き、一日を締めくくりました。

五島牛ハンバーグ・ステーキ 1,300 円（1 人前）なり

〇4 日目

早いもので最終日の 25 日となりました。この日の目的地は福江港から 11 マイル北に離れた奈留島。世界遺産の江上教会がある島です。出港は午前 10 時。

出港前にパチリ

事前に連絡を入れていた奈留島のレンタカー屋さんに連絡をとると、「役場へ電話してヨットを留める場所を確認してください」とのこと。なんとも親切。さっそく紹介のあった電話番号にかけてみると、役場の方から「港の奥にガソリンスタンドがある。その前にあるポンツーンに係留してください」との由。有難い限り。

潮汐表にも掲載のない強い潮流に逆らい、予定よりも大幅に遅れた時間に奈留島港の防波堤を交わしたところで、突然、私の携帯の着信音が。電話に出ると「私見えますか？港の岸壁でタオルを振っていますよー。奈留レンタカーですよ。ガソリンスタンドの前のポンツーンまで車を持っていきますねー」との声。なんとまあ、子連れにとって有難いサービス。

奈留島に初上陸

用意されたレンタカーは、なんと電気自動車。一回の充電で島を十分に満喫できるとのことで、海水浴セットと共に、島をぐるっと観光することにしました。まず訪れたのは食堂「もり」。島で唯一の食堂らしく、狭い店内に続々と人が入ってきます。ここでは定番の「ちゃ

んぽん：650 円」「牛チャーハン：900 円」に加えて、お勧めの「マグロ丼と五島うどんのセット：1,400 円」を注文。運ばれてきたマグロ丼は流石、五島の取れたてか。半端なく美味い。また、ちゃんぽんもあっさり味で、汗が噴き出す夏のクルージングにピッタリの味でした。

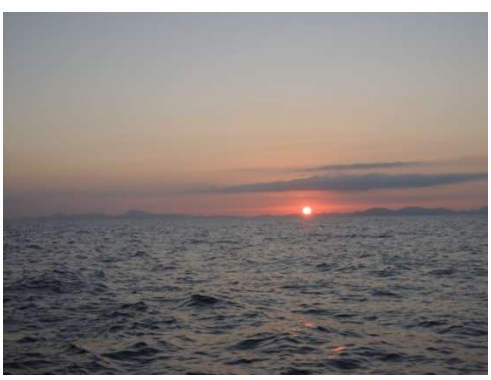
まだ食べたい⁉

次の訪問先は江上天主堂。世界遺産です。大正 7 年に建設された天主堂は 2008 年に国の重要文化財となっています。廃校となった学校の敷地脇の森の中にポツンとある教会。小さいながらも立派な木造建築であり、少人数の住人が持ち寄って建立したことであろう教会を、島の人々が努力して今日まで残していることに感動しました。

旧運動場

そして、短い滞在時間の最後はもちろん、海水浴。地元民しかいない宮の浜海水浴場でひと泳ぎ。地元の子供たちが元気に突堤から飛び込んでいました。あるべき夏休みの姿ですね。

気が付けば午後 3 時。レンタカーを返却し、ポンツーン目の前のガソリンスタンドで軽油を調達。夏の暑さが和らいだ午後 4 時に奈留島を離れました。50 マイルを 9 時間で走れば、夜半過ぎにはマリーナに戻れる計算です。出港後、夏盛りの五島灘は波も静かで、当日の夕日は格別でした。



燃えるような夕日を背に受け、北風にのって機帆走。途中、満点の星空を家族で仰ぎ、久々に天の川まで見えました。途中から長男はキャビンで爆睡。次男はコックピットで星を眺めながら寝付きました。良い夏の思い出になったことでしょう。

帰路は船酔いもなく

日が変わった 26 日の午前 0 時半に長崎サンセットマリーナに帰港。家内が手伝ってくれて、荷物をキャビンから搬出し、息子らを叩き起こし、午前 2 時に帰宅。午前 7 時に私は無事に出社ということで、家内と息子たちの協力に感謝した次第。ただ次回は、こんな強行軍を避けたいとも思いました。

今回のクルージング。初日から整備不良に遭遇し、途中、家内は蒸し暑さと揺れによって船酔いに苛まれ、私はクルージングを中断して帰港することも検討しました。「往くも勇気、帰るも勇気」と言います。今後、より快適で安全な家族クルージングを目指したいと思います。

次回はサンセットマリーナのヨット仲間（高嶺）から紹介のあった上五島の有川港へ。遠浅の蛤浜が子供にすごくお勧めとのこと。9 月あたりに訪問できればと思っています。